

# 11

NOVEMBER

- 2 [水]—3 [木] 『星回帰線』◎主ホール
- 5 [土]—6 [日] 高校生と創る演劇  
『女子にしか言えない〜プールの底で見た、私の幻燈〜』◎アートスペース
- 10 [木] 豊橋雅楽愛好者衆「千里」設立10周年記念 穂乃國和具◎アートスペース
- 11 [金]—12 [土] 劇団スーパー・エキセントリック・シアター第54回本公演  
ミュージカル・アクション・コメディ『土九六村へようこそ』◎主ホール
- 11 [金] 木下侑 ソプラノリサイタル◎アートスペース
- 12 [土] 第22回文化財保護講演会  
～街道ネットワークが作った奥三河山村文化のダイナミズム～◎アートスペース
- 13 [日] プェンテリコ・ベネズエラ設立10周年記念  
チェオ&ダビッド・ウルタード デュオ・コンサート◎主ホール
- 14 [月]—16 [水] 豊橋演劇鑑賞会 第257回例会『蟹工船』◎主ホール
- 16 [水] ドラマティックピアニスト はちまん正人 グロトリアンピアノコンサート  
◎アートスペース
- 19 [土] 第31回国民文化祭・あいち2016 プラットで親子わくわく"からだ遊び!"  
『コンドルズの遊育計画』◎主ホール
- 19 [土] 第1回葦毛温泉再生フォーラム◎アートスペース
- 20 [日] 豊橋日独協会 創立25周年記念事業 ドイツ無声映画祭『メトロポリス』  
◎主ホール
- 20 [日] ビティナ・ピアノステップ豊橋秋季地区◎アートスペース
- 22 [火] 石井桃子さんドキュメンタリー映画上映会と監督・森英男氏のお話  
子どもに本を一石井桃子の挑戦Ⅱ『子どもと文学』◎アートスペース
- 23 [水] くらときフェス2016 ～くらしときめきアカデミー合同発表会～◎主ホール
- 26 [土] Japanese Songs ～ Mami Style ～◎アートスペース
- 27 [日] 平成28年 第23回三遠南信ふるさと歌舞伎 交流豊橋大会◎主ホール
- 27 [日] クリエイトオブシミス創立30周年特別企画 ウクレレ 勝誠ニソロコンサート  
◎アートスペース

# 12

DECEMBER

- 2 [金]—4 [日] 『かもめ』◎主ホール
- 5 [月] 立川志の輔 独演会◎主ホール
- 10 [土] 豊橋市制110周年記念 障害者週間イベント◎アートスペース
- 13 [火]—14 [水] PLAT小劇場シリーズ KAKUTA『愚図』◎アートスペース
- 17 [土] こころの健康フェスティバルあいち◎主ホール
- 18 [日] 劇団豊橋演劇塾『死に顔ピース』◎アートスペース
- 21 [水] クリスマスジャズコンサート◎アートスペース
- 22 [木] 松元ヒロ ソロライブ◎アートスペース
- 23 [金] ゆかり会 Petit Concert◎アートスペース
- 25 [日] カラテ SUPERライブ2016◎主ホール

表紙/「プラットワンコインコンサート」Trio Katze  
 撮影:宮田明里  
 企画・発行/公益財団法人豊橋文化振興財団  
 編集・デザイン/味岡伸太郎+有限公司STAFF  
 平成28年10月発行 22号[隔月発行]



公益財団法人  
 豊橋文化振興財団情報誌  
 2016年11月—12月  
 vol. 22



TOYOHASHI  
 ARTS  
 THEATRE  
 PLAT

CONTENTS

表紙「プラットワンコインコンサート」

2

TOPICS

「プラットワンコインコンサート」

4

INTERVIEW:1

KAKUTA「愚図」

桑原裕子が語る人間の形

6

INTERVIEW:2

「かもめ」

坂口健太郎が思いを語る

8

CHALLENGE

「女子にしか言えない〜プールの底で見た、私の幻燈〜」

座談会 山田佳奈と高校生

10

INTERVIEW:3

「コンドルズの遊育計画」

近藤良平が「あそび」を語る

12

INFORMATION

PLAT主催公演情報

14

「プラットワンコインコンサート」

ESSAY

平田満のちよこっとエッセイ

「ハグ」

15

SUPPORT

TICKET CENTER

16

PLAT CALENDAR



中島——若手音楽家の育成を目的として開始したプラットフォームコンサートが3年目を迎えましたが、オーディションにあたり、審査員として立ち会って頂いた先生方が気が付かれたことを、まずお話しいただけますか。

杉浦——経験がないために損をしている若い人が多いよね。緊張のコントロールができない。

中島——会場の広さをわかっていなくて、力いっぱい弾いてしまった18、9のピアノの子たちがいましたね。

杉浦——会場の広さが理解できるのは、色々なところで弾いて、わかってくると思います。隅々まで聞かせるために大きい声・大きな音で弾きなさいという、たぶん教育だと思うのです。ところが、外国の人は大きい音で弾かない。

中島——1年目は全員一致が多かったですが、今年は少し悩みましたよね。主席で卒業したにもかかわらずトークが苦手な人もいたり。

野畑——演奏力で魅力をアピールできる子もいれば、自分はなぜこの曲を選び、弾いているかを上手に言え

る子と半々なので。演奏のみの子もいれば、トークも交えていいよと広げてもらうと、選ばれる子が少し変わるかなと思います。

杉浦——ただ、お客さんが柔らかくならないといい演奏はできない。上手でなくてもいいが、お客さんの肩の力がすつと抜けると、必ずこっちも抜ける。コンサートの時間をどう使うかは、演奏家の能力の内だと思うのです。

中島——トークを必須にしないでいいのではないかなと思います。ただ、お客さんを意識して弾いてくださいと。

杉浦——オーケストラと違い、1人や2～3人の時は全部自分たちで創らなければいけない。そういうことに気がついてほしいのです。

中島——「この子に経験をさせたいな」と思った人を選ぶのとは別に、例えば杉浦先生がこの子とこの子を組み合わせたら、という提案が進めば、理想的な形になると思います。選びっぱなしではなく、どうしたら演奏家として育ていくことができるかです。

杉浦——自分たちの知識はヨーロッパで長く演奏して



写真上/Musica Piatto(左より 天野初菜・杉浦孝治・小林美咲・兵藤雅晃)

写真右/新津くらら

今年で3年目を迎えた、若手音楽家育成事業。  
出演者オーディションの審査員をお招きし、  
若き演奏家たちへのメッセージを頂きました。

# プラットフォームコンサート

座談会出席者 チェリスト 杉浦薫 ピアニスト 野畑さおり 中島晴美

桜丘高等学校音楽科教諭 穂の国とよはし芸術劇場シニアプロデューサー



いた人や評価された人と仕事をしているうちに、教えてくれることの積み重ねです。留学している人もいます。例えばザルツブルクでは、日本人が名前を知らない先生でも素晴らしい。だから「わっ」と思う経験がたくさんあればあるほどいい。

中島——そういうチャンスが少ないと思うのです。だから、表層面だけでなく、何かを感じさせてくれる子たちの後押しをしてあげられればいいと思っています。

杉浦——例えばオーディションでは講評を書きますが、その中で伝えたいこととしては、「こちらが正しい」では



Trio Katze(左より 関根のぞみ・中村真帆・犬塚沙希)



三浦真理子



高柳鞠子

なく、「僕はこう思います」ということなので、その内容を演奏者に知ってもらえればすごくありがたい。こういう機会では、本人たちが師事する先生たちとはまた違う角度から見た意見を聞いた方がいいかも。

中島——そうですね。参加した皆さんには、オーディション後に先生方の講評をお伝えするようにしています。

野畑——すごくいいことです。チェリストの杉浦薫先生と、私はピアノ、そしてプロデューサーとしてのコメントを、オーディションの後にいただける。その上、ホールでリハーサルさせてもらい、ドレス合わせまでしてもらって、トークに対しても意見を言ってもらえる。そんなことは私の世代には全くなかったことです。ホントに羨ましい。こんな素晴らしい企画はないよと何人かに言ったら、「そうです!」とみんなすごく喜んでいて。素晴らしいシステムが豊橋で始まったなと思いました。

中島——特に私の印象に残っているには、2年目から出演のピアニスト・井垣壮太さんです。あの落ち着きと何とも言えない存在感。コンサートでの曲の紹介も解釈本の説明ではなく生きた言葉になっていたと思います。ところで、同じ奏者でも曲によって演奏の出来にバラつきがあるなと感じたのですが、それはどうして起こるのでしょうか。

杉浦——コンサートを例に出すと、演奏曲を決めると、つい全部ちゃんと弾かなければと思ひ、全曲を均等に練習してしまう。ですが、その中にあまり理解出来ていない一曲あったとして、特にその曲に丁寧に時間をかけて練習をしたら、自然と他の曲のレベルが上がってくる場合があります。丁寧にコツコツと練習することで、結果的に全体のレベルが上がることに繋がります。

中島——最後に一言ずつ、アドバイスがあれば。

杉浦——とにかく自分が納得するために丁寧に。丁寧に準備するということができない。それと自分を追い詰めない。リアリティがない音をいくら出しても意味がない。「あーこの音!」という音をひとつでも出せたら音を2、3間違えても別にいいと思うのですよ。

中島——恐れずに立ち向かえということですよ。

野畑——このチャンスを絶対につかみ、常にアンテナを張り、オーディションを受け、精神的に強くなってもらいたい。15分という枠で自分の魅力を出せるものを選び、そこから長い時間を頂いた時には、得意なものばかりではなく、「ちょっと苦手だけど挑戦してみようかな」と、どんどんやらないと、年取ってからではチャレンジ精神がなくなるので。受かったら食欲に色んな分野の曲を、1人だけでなくアンサンブルにもチャレンジしてほしいなと思います。

## PLAT ONECOIN CONCERT

若手音楽家育成事業/プラットフォームコンサート

コンサート冊子は14頁(PLAT ONECOIN CONCERT)・13頁(INFORMATION)をご覧ください。

「何だ、その気になったらすぐに行けるのだ」と思いました。例えば東京では完売して見られない、タイミングを逃したという公演でも「豊橋で見れるよ」と、見に来ることもできるし、豊橋に東京の劇団が来ていることで、なんだか東京の人たちが来てると、豊橋の人たちも興味を持ち、東京や関西からでも中間でいろんな人が集まりやすいことを、面白いと思いました。ニューヨークではないですが、いろんな地方の人たちがゴチャゴチャに混ざって、自分たちが演る時にも、西からも東からも来てくれる場所として、豊橋をKAKUTAからも発信していけたらと思います。

豊橋のワークショップでは、すごく楽しんでくださったのですが、前に潤色・演出をした『ピーターパン』の名古屋公演でも最初、大阪とか広島とかと比べて「わあー」みたいな笑いをせず割と神妙に見ているのかなと顔を見ると、実はみんなニコニコして、「やっほーやっほー」みたいな場所柄ではないのだけれど、ちゃんと開こうとしてくれているという印象でした。時間を掛けて、もっと豊橋の人とも触れ合っていけたらいいなと思いましたし、KAKUTAのメンバーにもどうやって触れてもらえたらと思います。

——最後に少し唐突な質問ですが

桑原さんにとって「愛」とは…

桑原——愛ですか。そうですね、愛は「出会ってしまった」ということです。人に出会いたいとか、人が好きとかいうことはあまりなく。「趣味は人間観察です」とか、そんなふうにも思ったこともなく、ワークショップもそれが好きでやっているわけでは正直ないのです。なぜかという、出会ってしまうと好きになる、好きになると関わろうとする。関わりと苦勞する。好きになればなるほど怖いものが増えていくことだと思うのです。愛とは恐ろしい物が増えていくこと。だから「あ、出会っちゃった」と思うものが、「愛」なんだなという感覚がありますね。

人なのか、母親には悪人だが、悪人はこの世にいない、その人は愚かな人間だったとしたら……。

じゃあ「愚か」とはなんだろうと考えていたら「愚図」と言う言葉が出てきて、ぎょっとした。小学校の時から「愚図」としよっちゅう言われていたので私は「愚かな図」を描いているような人間で「愚図」というレッテルを受けてきたのか、と。のろまとか、ゆっくり、おっとりとは違う。愚かな絵を描いている人間はダメなのか、と考えていた時に林家正蔵さんにお会いした。

正蔵さんはKAKUTAをすごく好きだとおっしゃられ、「ぜひやりたい」と言ってくださった。落語協会副会長で、すごい方です。でもいじられキャラみたいな、ある種本質ではないレッテルを、すごいお父さんも含めいろいろ背負ってられる方に、失礼ですがあえて「愚図」というレッテルを顔に貼るようなチラシを作ったのですが。正蔵さんという人物像と、作品の中の人物は、ホントの愚かな絵を描いているのか、ということをも真正面から、裏切った目線からも描きたいなと。

——今回の愚図の写真のイメージというか

その舞台の設定について

桑原——みんな一つの人生という道を歩いている、一番後ろにいる人間の目線がここなのだ。自分の前をいろんな人間が走って行って、その度に振り返るけれど、みんな意地悪い顔をしている。人生を振り返ればみんな嫌なやつだったなと思っている。自分たちの先に行く、自分を乗り越えて行ってしまった人たち。「早く来いよ、来れねえのかよ」と挑発し、「遅せえよ」と怒っていると彼の目には写ってしまう。すごく歪んだ愚図からの見方というイメージで作ってみました。

——豊橋で初めての公演になると思うのですが

豊橋のファンに伝えたいことがあれば

桑原——まずびっくりしたのは、「え？もう着いたの!」こんなに新横浜から豊橋は近いの、それが衝撃的でした。

事件が直面したからではなく、他人から見たらなんにもないところで、じわじわと「あー生きていくのしんどいなー」と思うようなことを書くことが多い気がします。

ある時、ポロポロのカーンを引きずっているおばちゃんとかすれ違ったのです。「なんであんなポロポロなの」とか「どういうセンスであのカーンを選んだの」と考え始めて、たまたま通り過ぎただけなのですが「この人がどこからやってきてどこへ去るのか」目にも留まらない瞬間とか、人生をすくい取れたらいいなと思っています。

舞台で心がけて、役者によく言うことですが、自分を見せているのではなく、あなたが見ている世界の先をお客さんは見に来ているのだということ。例えば「ああ、あそこ山が…」と言っている自分ではなく、その向こうに山があるとお客さんに見えることを演りたい。舞台の外にどれだけ世界が広がっていくのかを演りたいなと思っています。映画では出来ないことの一つだと思うのです。映画では、一瞬だけ通行人が出てきて、面白いこと言っ、て、駅員さんが面白いことを言って、次のお話になりました。で、あの駅員さんどうなったの?とは思わない。でも、舞台なら思えるかもしれない、その向こうにまだ駅が続き、線路が続いている世界をどれだけ見せられるか。それをいつも演りたいと思っています。

——いつも題名が印象的なのですが、今回の『愚図』が持つイメージとは…

桑原——『痕跡』と書いて「あとあと」と読む、改めて見た時に全然違う印象で入ってくる言葉、違う読み方したのに同じ意味だったと、不思議だなと思うのです。「あとあと」の作品では、「悪人」ってどういうものだろうと考えていた。子どもをさらった人の話ですが、それが果たして悪

——創立20年を迎えましたが、「KAKUTA」という劇団名について…

桑原——「KAKUTA」は、結成当初のメンバーの頭文字から取りました。たまたま脚本やりたい金井と、役者やりたい桑原と、演出やりたい田村で「3人いれば出来るじゃん芝居」と思い、始めたのです。私はその時役者だったのですが、脚本家も演出家も辞めてしまい(のちに田村は演出助手として復帰)、引き継ぐ形で脚本や演出もやることになりました。

で、20周年ですよ…。KAKUTAはブレイクしないまま20年きて、「来年こそブレイクするんじゃない」とか「そろそろきているんじゃない」とか、みんなに言われて「いつくるのだろう?」みたいな、そんな感じでやってきたのですが、ありがたいことに少しずつでもお客さんが増え、ウサギと亀みたいに「よく頑張って登っているね、亀くん」という感じです。

——劇作家で演出家で女優とどのように使い分けているのでしょうか。

桑原——私は役者出身なので、「私も演りたいのに!」と最初はヤキモチのような気持ちもありましたが、ある時、ふと「これって役者として帰ってくることだ」と気づき、演出でやっていることは役者の勉強でもあるのだと思えました。役者だからこそ、演出がどのように言ったらわかりやすいのか、演出していく上で、どんな脚本がいいとか、お互いの足りない部分を補ってくれるような部分もある。ただいっぺんには難しいので、劇団員に助けてもらいながらですが、それが面白いところでもあります。

——人間の内面を描き出すことが巧みですが描きたい人物像とはどのようなものですか。

桑原——自覚せず、言われて「あ、そうだな」と思うのは、日陰の人物を書いているということ。真っ直ぐ陽が当たる世界ではなく、日陰で、くすぶっている人々を描くことが多い。人が気にもせず、見落としがちなところや、大

果てしなく愚図な男の彷徨と冒険。  
劇団20周年を迎えたKAKUTAが贈る、シニカル・ニューマッドドラマ。  
桑原裕子が語る人間の形  
作・演出・出演



桑原裕子〔くわばら・ゆうこ〕／KAKUTA主宰。作・演出を兼ね、役者としては結成以後全本公演に出演。阿佐ヶ谷スパイダース、ブラジル、道学先生など人気劇団や葛河思潮社「冒した者」白井晃演出「ペール・ギュント」ほか多数出演。俳優業のほかに、脚本家として舞台・映像・ラジオ・ホラーイブ小説・ゲームシナリオと様々な分野に脚本を提供。09年、劇団公演「甘い丘」(@シアター・トラム)再演の作・演出で平成21年度(第64回)文化庁芸術祭芸術祭新人賞を受賞。2015年「痕跡」で第59回岸田國士戯曲賞候補、第18回鶴屋南北戯曲賞受賞。

PLAT小劇場シリーズ

12月13日[火]19:00開演・14日[水]14:30開演

作・演出・出演＝桑原裕子

出演＝林家正蔵、成清正紀、若狭勝也、今奈良孝行、今藤洋子、谷恭輔、千葉雅子ほか

会場＝PLATアートスペース

鶴屋南北戯曲賞を受賞した

桑原裕子が描く、受賞後初の長編新作。

KAKUTA 愚図

中島——坂口さんは、舞台に出演されるのは今回が初めてなんですよ。

坂口——はい、初めてです。

中島——『かもめ』として「トレープレフ」と言われた時はどう思われましたか？

坂口——舞台をやってみたい気持ちはあったのですが、タイミングが思ったよりも早かったし、『かもめ』を読んだ時、現代の口語に直されていないので、「大変かな」と。でも、1回目・2回目と読む度にトレープレフ役は面白そうだなと思うようになっていきます。

中島——今回初めて舞台に出演されるにあたっての準備としての、稽古前のワークショップはもう始まっていると伺ったんですが、そのお話を聞かせていただけますか？

坂口——ワークショップは、台本に書かれていることでいざお芝居を、というよりは、トレープレフとニーナの関係性について話してみようかとか、その一幕・二幕・三

幕・四幕で変わっていく、セリフとかお芝居の下にどんな感情が動いているかを考える時間という感じです。映画とかドラマでも、キャラクターの個性とかを考える時間を設けるのですが、なぜこのセリフが出てくるのだろうとかを、ふわ〜っと考えている時間が好きだったりしますし、今回は演出の熊林さんに手伝ってもらい、一緒にそれを少し深く深く掘り下げている感覚ですね。

ワークショップには満島さんがいらっしゃる時もあるし、渡辺大知さんが一緒の時もあります。「こんなことをしてほしい」ではなく、海外の舞台作品の映像を見せてもらって、舞台はこんな表現が出来るのだよと、可能性を広げてくれるようなワークショップというイメージで。セリフを一言発する度に、何かをのせなければいけないというイメージがあったのですが、熊林さんは普通に喋って普通に動いて、それを舞台の上で見ればいいからと。だから、その時間の中で僕のトレープレフへのイメージは変わったかもしれないですね。また佐藤オリエ

## 劇作家志望の青年トレープレフ役で初めての舞台出演。 坂口健太郎が思いを語る

聞き手 中島晴美 穂の国とよはし芸術劇場PLAT シニアプロデューサー

## INTERVIEW:2

んとご一緒して、初めて本読みをさせていただいた時、オリエさんが台本を普通に読んでいるだけで、舞台を想像させてくれるという声の出し方はすごいなと思いましたし、面白かったです。

中島——としていよいよこれから稽古がはじまりますが、役を掴んだ実感はありますか。

坂口——僕は、まだ掴んでいなくてもいいかなと思っています。囚われ過ぎるよりは、共演者さんと一緒に演って出てくるもの、その瞬間を大事にした方がいいんじゃないかなと。稽古なり本番で違うものが出てくるだろうから、「こうやろう」「こういうふうに通こう」「こういうふうにしやべろう」みたいなのは決めてはいないですね。

中島——「トレープレフ」は若い青年役ですし、坂口さんが共感される部分もあると思いますけど、どうでしょう。

坂口——25歳のタイミングでこの役をいただくというのは、すごくありがたいことだと思っていて。もちろん「どうしてこの言葉が出てくるのだろう」と思うこともありますが、お母さんやニーナに対する感情とか、なんとなく「あ、こんなこと今思っているのかな」と理解しやすい部分もあります。『かもめ』は海外でも演られており、日本でも何回か上演されていますが、僕なりのトレープレフがやれた

らしいなと思っています。

中島——朝ドラのあの役柄イメージと共通するものを感じます。

坂口——星野さんですね、すごく幸せなキャラクターをやらせていただきました。

中島——では、坂口さんが役者さんになられたきっかけは。

坂口——何かの作品が好きで、とか役者さんが好きで芝居を志す、というのは特になかったですね。きっかけというのも、何でモデルになりたかったかと言われると、単純に「かつこよさそうだから」で応募したのです。少しずつ名前を出してもらい、なんとなくですが「やってみいな」という小さな思いみたいなものが、少しずつ視野が広がるにつれ大きくなっていったというイメージです。「10年後にどんな役者さんになっていたいですか」みたいに聞かれたとしても、実は僕にはそういうのは全くないんですよ。自分は自分でいればいいし、夢や目標を聞かれた時も、僕は寄り道とか道草が大好きで、その方がたどり着いた時に広いじゃないですか。ほやーっとしている方が僕にはあっている感じがします。

中島——でも映画出演も、早い時期からですね。

坂口——ホント、ラッキーですよ。僕は、ホントに人に恵まれていると思います。たぶん自分一人になると何も出来ないのですが。

中島——では最後に、豊橋のお客さんに是非一言。

坂口——一回きりの初舞台で、まだ、どんなことが僕に出来るのか分からないのですが、何か残したい舞台ではあります。最初『かもめ』を読んだ時、話は難しいし、よくわからないなと思ったのですが、何度も読んでいくうちに、なんとなく頭のどこかでいつも引っかかる、心地いい引っかかりというか。だからこの舞台を観て、何かしら、どこかで引っかかってほしいなと。なんとなく記憶の片隅に残るような舞台にしたいなと思います。

中島——これからいよいよ本格的に稽古が始まる直前に貴重なお時間をお取りいただき、どうもありがとうございました。



撮影:玉井俊行

坂口健太郎[さかぐち・けんたろう] / 19歳のとき、第25回『MEN'S NON-NO』モデルオーディションに合格しモデル活動をスタート。専属モデルとして2014年6月号で20年ぶりの単独表紙を飾り話題となった。2014年映画『シャンティ』365日、幸せな呼吸』で俳優デビュー。2015年『ヒロイン失格』ほか5本、2016年『残機-住んではいけない部屋-』『64-ロクヨシ』『高台家の人々』に出演。「オケ老人!」秋公開予定。TBSドラマ『コウノドリ』で連続ドラマ初出演を果たし、月9の話題作『いつかの恋を思い出してきつと泣いてしまう』に出演。4月からの連続ドラマ小説『と姉ちゃん』星野武蔵役。TBS『重版出来』小泉純役。おおさかシネマフェスティバル2016新人賞受賞。本作品が初舞台となる。

12月2日[金]18:30開演・3日[土]・4日[日]13:00開演

作=アントン・チェーホフ

翻訳・上演台本=木内宏昌

演出=熊林弘高

出演=満島ひかり、田中圭、坂口健太郎、渡辺大知、あめくみちこ、

山路和弘、渡辺哲、小林勝也、中嶋朋子、佐藤オリエ

会場=PLAT 主ホール

フレッシュな若手男優陣と実力充実のベテラン勢が顔を揃えた

「これぞチェーホフ」という決定版

# かもめ

染みやすい演技をするのが大切と思ったので、経験し感じたことを生かし演技できるようにと思います。

内藤——脚本が既製ではないので、私たちならではの演劇になるのが純粋に嬉しいなと思うし、頑張ろうというモチベーションになっています。

大橋——最後に山田さんに、高校生たちとどんな作品に創り上げていきたいかをお聞きしたいです。

山田——それぞれの人生に、今回の作品が大きなものになればいいなという愛を込めての10年20年後の関わり方をしたいなと思っています。演劇の面白いところは、人の人生を変えられることや、自分の人生が変わることです。そんな体感させてあげたいという気持ちはありつつ、でもそれは人の心を動かす作品を創るのが前提で、彼ら、彼女らの人生のドキュメンタリー化、人にこう伝わるのだという、自分の生きてきた16～18年も悪くなかったなと感じて欲しい。「高校生と創る」が前提なので、高校生たちが何を感じるかというのは大事にしたいと思っています。

大橋——お客さんに向けて一言。

山田——自分が忘れていた視点とか、新たな感情と出会っていただければいいなと思っています。

大橋——言い残したことはないですか？

高校生——稽古頑張ります。

は言う。例えば子どもができた先輩、転校生がいる噂話という題に、どんどん墮ろす話になっていき、子どもを産むのであればとか、人生の先の話や、子どもというのが自分にとってどういうものであるか、立体感を持って喋ってくれたのです。「そんなにちゃんと物事を捉えているんだ」とハッとする部分が多く、大人以上に自分の人生と戦っているな、というのがすごく印象的でした。

大橋——豊橋の人や、東三河の高校生たちの特徴は？  
山田——なんだろうな…。でも豊橋の特徴は、最初すごく窺ってくる。穴蔵から顔を出したウサギみたいな感じ。安心するまで穴から出てこない。で、安心して穴から出てきたらすごい速さで私のまわりをビュンビュン走るので、なんだ、そういうところ持っていたんじゃん！出せばいいじゃない！が多いですね。

大橋——高校生の皆さんに、本番への意気込みを聞きたいと思います。

中神——三年生でこれが最後なので、この仲間のできる最高のものを頑張りたいと思います。

羽田——せっかく山田さんと関われるので、今集まった仲間たちともっと仲良くなって、いいものを作って、観に来てくれる人に「よかった。すごく伝わるものがあった」と言ってもらえるように演じたいなと思います。

鈴木——人が共感しやすい・馴

毎年応募者に女子が多いと言われたので、じゃあ女子が生き生きとしているものと思った。『女子にしか言えない』と付けると、女子同士の噂話だったり、恋愛話を想像するでしょ。シメシメなわけです。今回、大体の筋書がある中でワークショップを重ね、「この人たちの人生を書くのが面白い」。それをどう構成付けていくか、物語をどれだけドキュメントに寄せていくか、それぞれの高校生が、等身大から見た「人間ってこうだね」という。それが『女子にしか言えない』という先入観から結局高校生一人ひとりの生き様みたいなものが描けたらいいなと、頑張っています。

大橋——サブタイトルの『プールの底で見た、私の幻燈』。これには何か、理由があるのですか。

山田——宮沢賢治の「やまなし」という作品が5月と12月という短い、2枚の幻燈を並べた話で他者がその2つの物語を語る、という切り口から始まります。物語なのか影絵なのか、それがすごく作品にあっているかなと思います。「プールの底」は、9月からだいたい6月のプールはどんどん濁っていく。忘れ去られているようで、存在感を発している。プール裏では告白が行われ、校庭ではその頃野球部が叱咤されている。プール裏と校庭側でその顔が全く変わる。それがすごく演劇的だなと思ったのです。

大橋——山田さんにとって「女子」とは。

山田——出演者の男の子が「結局、人間は生物的にオスとメスに分かれる。女性ないしは女子という言葉は人間が付けたのだ」と言っていた。確かに女子も女性も一緒ですよ。違いはなく、大人になっても女子と言いたいし、子どもでも「私は女性だ」と主張する。そう考えていくと、女子とは初めて恋をし、鏡の前で自分の顔を眺めて、「女性」を感じた『赤い実はじけた』瞬間なのかなと思いました。

大橋——ワークショップで印象に残ったことは。

山田——我々大人が「高校生ってこうでしょ」と予測していた、3個先のことを彼女ら

大橋——「高校生と創る演劇」は2014年に平田オリザさんの『穂の国の「転校生」』を、2015年は野田秀樹さんの『赤鬼』を上演しました。今年は口字ックの山田佳奈さん作・演出で、初のオリジナル脚本『女子にしか言えない～プールの底で見た、私の幻燈～』を上演します。オーディションで選ばれた高校生キャスト18名とスタッフ12名とで11月5・6日が本番です。

まずは何がきっかけで参加しようと思ったのかを。

中神——私は三回目ですが、プロと関われるチャンスは減多にないので、三年生で受験だけど受けました。

羽田——僕も似た感じで、昨年の『赤鬼』で迷っていたら、応募期間が過ぎていて、今回は頑張らなければな、という気持ちがあります。

鈴木——将来演劇の仕事につきたいと思っていて、何かしないかと探していたのですが、初めてのことだらけで戸惑っていますが、挑戦してみようと思いました。

内藤——将来の夢がヒーローショーの製作の仕事で、プロの仕事を見られるし、音響とか照明とか、どんな仕事に向いているのか考えるきっかけにと参加しました。

大橋——山田さんは、高校生と創ることで思ったことはありますか。

山田——市民と創るスケッチ群像劇『話しグルマ』で、豊橋で創作させていただき、今でも覚えているのが、大人同士でちょっと上手く行かない時に、たぶん『転校生』にも出ていた子が「大人の方が子どもっぽいよ」と怒って泣いていたのが印象的。いい意味でユルさ・ぬるま湯加減がわからないから、高校生はこんなに素直に「熱心にぶつかってくるんだ」と発見したものがあって、今回の1、2ヶ月のお付き合いではなく、彼ら・彼女らにとって10年先にも残るものをと。荷は重いですよ。

大橋——タイトルについてどんな印象を抱いたかを聞きたいと思います。

中神——『女子にしか言えない』とあっても、男子も女子も、と書いてあったので、恋やら部活やらの話で、女子同士でしか言えない、男子が女子にしか言えないこととか、等身大な感じになるのかなと想像しました。

羽田——最初は、どういう感じなのか考えられなかったが、これからの稽古で、どう自分が関われるのか、どういう劇になるのかすごい楽しみで、目標に向かっていけたらなと思いました。

鈴木——タイトルはホント謎でした。サブタイトルの『プールの底で見た、私の幻燈』もわからないじゃないですか。やっていくうちに理解できればいいと思います。

内藤——小学生の頃は男女関係なくワイワイやっていたのが学生生活だと女子同士で固まるようになったなと連想し、学校かなという印象を受けました。

大橋——なるほど。高校生はそのように思っています。

山田——タイトルはわかんないぐらいでいいかなと思う。その方が想像力が膨らむでしょ？

意味は2つあって、まず「今年は既製じゃなくて書き下ろしにして欲しい」ということで、平田オリザさん、野田秀樹さんからの山田脚本というプレッシャーの中で、



11月5日[土]13:00 / 19:00 開演

6日[日]13:00 / 17:00 開演

脚本・演出＝山田佳奈

出演＝オーディションで選ばれた高校生

会場＝PLAT アートスペース

高校生と創る演劇

# 女子にしか言えない

～プールの底で見た、私の幻燈～

## 座談会 山田佳奈と高校生

脚本・演出

彼ら、彼女らの一六〇一八年間をドキュメンタリー化  
高校生たちと一緒に燃焼しつくします。

座談会

山田佳奈と高校生

### 座談会出席者

高校生

中神真智子 / キャスト・3年生

羽田翔大 / キャスト・3年生

鈴木瑠花 / キャスト・1年生

内藤広稀 / スタッフ・2年生

山田佳奈 [やまだ・かな] /

1985年生まれ。レコード会社

勤務を経て、2010年に劇団口

字ック旗揚げ。劇団代表作で

ある「荒川、神キラーチューン」

では演劇ポータルサイト

「CoRich舞台芸術まつり!

2014)でグランプリ、2014年度

サンモールスタジオ最優秀団

体賞受賞し、2016年6,7月には

東京芸術劇場と穂の国とよはし

芸術劇場の2都市で再演した。

音楽フェスへの野外演劇での

出演、映画制作など、活動範囲を

拡げる。いま注目される、若手劇作家・演出家のひとりである。

大橋玲 / 穂の国とよはし芸術劇場

PLAT事業制作部

# あそいく コンドルズの遊育計画

第31回 国民文化祭・あいち2016 / プラットで親子わくわく“からだ遊び”!

11月19日[土]11:00 / 15:00 開演

構成・映像・振付=近藤良平

出演=コンドルズ

会場=PLAT主ホール

中島—まず、「コンドルズ」と『遊育』の関係からお聞きします。

近藤—『遊育』とは、元々2003年ぐらいに『からだであそぼ』というNHKの番組で、体の遊びを考えたり、作ってみたりした中から、可能性がいっぱい生まれました。そこからワークショップを行うと、僕の元々のダンスと、幼児教育の番組がほとんど同じ所に辿り着いたのです。体を使うことを教えるところは、ほとんど変わりません。

中島—以前、『日本昔ばなしのダンス』で、子どもが物凄いテンションで、とても面白いと思いました。

近藤—例えば『グリム童話』を題材にした子ども向けのダンスが、ヨーロッパにはあるが日本にはない聞き、そこから始まり、子どもに見せたいプラス、親にも見せたいと思いました。子どもが笑い、大人も笑うという笑いが交錯する感じに興味を持ったのです。

中島—長く続く中で、結婚し、子どもと接する機会も増え、子どもの気持ちも、分かるようになったのでは。

近藤—子どもの気持ちという程はわかりませんが、メンバーたちの子どもが増え(どちらが子どもか分からな

いですけど)、「子ども」というキーワードはやはり増えていますね。何時に迎えに行くとか、皆苦勞しているので、預ける方の気持ちもわかるようになっていきますね。

中島—子どもにもっとも大切なこととは。

近藤—子どもと一概には言えないが、僕たちの頃は、親からみて野放しにするタイミングがあったと思うのですが、もうそれがほほえないですね。してはいけないことが「どこでこんなに知っちゃったの」と思うぐらい、早くに身につけてしまっている。だから、野放しとまではいなくても、遊べる場所や遊べる感覚を作らなくては。

中島—遊びの道具は、皆さんで作るのですか。

近藤—はい。それはそれで面白いなと思っています。段ボールを使って遊び道具を作るのですが、段ボールが好きなのではないのです。アートでも段ボールをいっぱい使う人がいるように、変幻自在で面白いのです。PLATでは、劇場そのものだけでなく、もっと広いエリアで遊ぶ場を考えたいですね。

中島—親も楽しさを体感しないと、子どもにもさせないですね。

近藤—子どもで、飽きっぽいのが困ります。大学生も、飽きっぽい。もっと執着し、しぶとくなつて欲しい。若い人が飽きっぽい過ぎると思うのです。同じゲームをもっと続けろと思うのです。すると、Bパターンのルールが出来たり、何かずるい手を思いついたり。

あそべば育つ! あそべば未来が広がる!  
あそびは最高のコミュニケーションの道具!  
構成・映像・振付  
聞き手 中島晴美 穂の国とよし芸術劇場ロイヤルシニアセンター  
近藤良平が「あそび」を語る

## INTERVIEW : 3

違う方法で遊ぶことをしたいのです。段ボールの遊びも、僕たちがあてがったルールでないことを始めると、僕には微笑ましく、嬉しいのです。

中島—遊びの中で気づきがある。

近藤—そうですね。それ自体は、飽きる、飽きないとは関係ないのですが、子どもは遊び道具が少なれば少ないなりに遊ぶので、いっぱい必要なわけじゃない。中島—開場の前に一時間遊ぶ時間がありますね。

近藤—開場前に遊び場で接したり触ったり、子どもたちが段ボールだけではなく、場所にも馴染んでいく。僕たちが、その場所で走ったりウォーミングアップしたりするのと一緒に、子どもたちにも時間を与えると、「ここはこういう場所なのだ」、良い言い方をすると、自分の基地だと思つたらもう勝ちですね。そんな所で遊び始めたら、もうワイワイしちゃうよね。だから、始まるギリギリに劇場に来るのは勿体ない話です。

あと『あそんどうズ』(NHK Eテレ)は観ましたか。『あそんどうズ』は、遊びとコンドルズが融合した番組ですが、その前の『からだであそぼ』(NHK教育)は、『おかあさんといっしょ』と同じ幼児教育の番組です。今回の『あそんどうズ』は福祉枠です。じいちゃん、ばあちゃん、お父さん、お母さん、子どもがいる三世代をターゲットにしていって、子どもだけが遊び、大人は見ているのではなく、「よし、家族で遊ぼう」ということが行われたら良いなと思います。劇場にも、子どもだけで来ら

れるわけではありませんし。  
中島—「隣の人と手をつなぎましょう」あれも、中々ないですよ。

近藤—最近の方が強くやっています。なぜかという、続けなくて無理なことが分かったのです。おじさんたちに急に手をつなげと言っても無理だし、やはり嫌目で見られる。『ハンドルズ』も、障がい者メンバーと一緒に、お父さんやお母さん、サポートセンターの人たちがいっぱいいるんです。初め、大人たちは後ろで遠慮をする。障がい者の人たちだけ、ワーと遊んで。見て、座っているのはつまらないじゃないですか。でも最近は、少しでもうながすと、皆出て来るのです。「待ってました!」みたいに。だから、続けると、手をつなぐことも、壁を超えようか、少し紐が解けてきます。

0歳児からも入場OKになると、僕も知らなかったのですが、1、2歳でも良いんですけど、それぐらいの子どもを連れてお父さん、もしくはお母さん方も実は見たいのですね。凄く、その気持ちをよく感じました。

中島—そうですね。豊橋でいよいよ11月ですが、豊橋は東京とは違うことはないですか。

近藤—劇場前のホールも使い、東京よりもエリアが広いので、体感を網羅するとか。その日は覚悟して、朝食を食べたらすぐに出掛けて来るぐらいの感覚で過ごして、帰った後も延長で遊ぶ気持ちで一日を費やしてくれると良いです。



近藤良平[こんどう・りゅうへい]/コンドルズ主宰。世界的に活躍するダンス集団「コンドルズ」の主宰。NHK「からだであそぼ」内「こんどうさんちのたいそう」、「あさだからだ!」内「こんどうさんとたいそう」、NHK連続テレビ小説「てっぺん」オープニング振付担当。第四回朝日舞台芸術賞寺山修

司賞受賞。三池崇史監督「ヤッターマン」をはじめとする映像作品、舞台作品の振付多数。またNHK「地球イチバン」の旅人役や、俳優としてNODA-MAP「THE BEE」、前田哲監督作品などに出演。横浜国立大学、立教大学などでダンスの指導にあたる。

## PLAT主催公演情報

『勸進帳』



2016年7月松本公演・舞台写真  
撮影・山田毅

高校生と創る演劇  
「女子にしか言えない  
～ブルーの底で見た、私の幻燈～」



大阪フィルハーモニー交響楽団 ニューイヤーコンサート



大友直人 ©Rowland Kirishima  
牛田智大 ©Ayako Yamamoto

「コンドルズの遊育計画」



プラットワンコインコンサート



高柳鞠子 三浦真理子

ワークショップファシリテーター養成講座2016後期  
「まちに聞く、考える」



**10/22 [土] 19:00開演・10/23 [日] 14:30開演**  
PLAT小劇場シリーズ

**木ノ下歌舞伎「勸進帳」** **好評販売中**  
歴史的な文脈を踏まえつつ、現代における歌舞伎演出上演の可能性を発信する木ノ下歌舞伎による『勸進帳』を、2014年PLATアールスペースにて『ハムレット』を上演した杉原邦生演出により上演いたします。●監修・補綴＝木ノ下裕一●演出・美術＝杉原邦生●出演＝リー5世、坂口涼太郎、高山のえみ、岡野康弘、亀島一徳、重岡漢、大柿友哉●会場＝PLATアールスペース●料金＝[全席自由・日時指定・整理番号付]一般3,000円ほか

**11/2 [水] 19:00開演・11/3 [木・祝] 13:00開演**  
「星回帰線」

●作・演出＝蓬菜竜太●出演＝向井理、奥貫薫、野波麻帆、高橋努、岩瀬亮、生越千晴、平田満●会場＝PLAT主ホール●今後の販売に関してはメ〜テレイベント事業部(電話052-331-9966)へお問合せ下さい。

**11/5 [土] 13:00開演/19:00開演**  
**11/6 [日] 13:00開演/17:00開演**

高校生と創る演劇  
「女子にしか言えない

～ブルーの底で見た、私の幻燈～」 **好評販売中**  
●脚本・演出＝山田佳奈●出演＝オーディションで選ばれた高校生●会場＝PLATアールスペース●料金＝[全席自由・日時指定・整理番号付]一般2,000円/ U24(24歳以下)1,000円/高校生以下500円  
※本公演は宝くじの助成を受けて実施しています。

**11/11 [金] 19:00開演・11/12 [土] 13:00開演**  
劇団スーパー・エキセントリックシアター(SET)第54回本公演

ミュージカル・アクション・コメディ  
「土九六村へようこそ」 **好評販売中**

三宅裕司、小倉久寛を中心に結成し、今年創立37年を迎えるSETがPLAT初登場! 奇想天外な設定に社会性のあるテーマを取り上げ、笑い・音楽・ダンス・アクションをふんだんに盛り込んだ大エンターテインメントです。●脚本＝福田哲平●演出＝三宅裕司●出演＝三宅裕司、小倉久寛ほか●会場＝PLAT主ホール●料金＝[全席指定]S席7,000円/ A席6,000円/ B席4,000円ほか

**11/19 [土] 11:00開演/15:00開演**  
第31回国民文化祭・あいち2016

プラットで親子わくわく「からだ遊び」! **好評販売中**  
「コンドルズの遊育計画」 **好評販売中**  
●構成・映像・振付＝近藤良平●出演＝コンドルズ●会場＝PLAT主ホール●料金＝[全席指定]おとな3,000円/こども(3歳～高校生以下)500円/3歳未満膝上鑑賞無料

**12/2 [金] 18:30開演・12/3 [土]・12/4 [日] 13:00開演**  
「かもめ」

●作＝アントン・チェーホフ●翻訳・上演台本＝木内宏昌●演出＝熊林弘高●出演＝満島ひかり、佐藤オリエ、田中圭、中嶋朋子、坂口健太郎 ほか●会場＝PLAT主ホール●当日券の販売有り。今後の販売に関してはお問合せ下さい。

**12/5 [月] 18:30開演**  
「立川志の輔 独演会」

古典・新作を問わず落語に新しい息吹を吹き込む、大人気の立川志の輔による独演会です。●会員先行＝10月8日(土)●一般発売＝10月22日(土)●出演＝立川志の輔●会場＝PLAT主ホール●料金＝[全席指定]一般4,000円ほか※各発売初日はお一人様一申込につき2枚まで。

**12/13 [火] 19:00開演・12/14 [水] 14:30開演**  
PLAT小劇場シリーズ

**KAKUTA「愚図」** **好評販売中**  
●作・演出・出演＝桑原裕子●出演＝林家正蔵、成清正紀、若狭勝也、今奈良孝行、今藤洋子、谷恭輔、千葉雅子ほか●会場＝PLATアールスペース●料金＝[全席指定]一般3,000円ほか

**2017/1/14 [土] 16:00開演** **ライブポートとはし** **好評販売中**  
「大阪フィルハーモニー交響楽団

ニューイヤーコンサート」  
既存の音楽にとらわれず多方面で活躍する指揮者・大友直人が、若き天才ピアニスト・牛田智大と挑むベートーヴェン「皇帝」。重厚な大フィルサウンドをお楽しみください。●会場＝ライブポートとはしコンサートホール●料金＝[全席指定]S席4,500円/ A席3,000円ほか

**2017/2/18 [土] 13:00開演**  
二兎社「ザ・空気」

永井愛の作・演出による新作は、ユニークな人物設定と軽妙な台詞で魅了しながら、理屈を超えて現代日本を支配する「空気」の存在に迫ります。●会員先行＝11月13日(日)●一般発売＝11月26日(土)●作・演出＝永井愛●出演＝田中哲司、若村麻由美、江口のりこ、大窪人衛、木場勝己●会場＝PLAT主ホール●料金＝[全席指定]S席5,500円/ A席4,500円/ B席3,000円ほか

**2017/3/12 [日] 15:00開演**  
ピーピング・トム「ファーザー」

ローレンス・オリヴィエ賞最優秀ダンス作品賞を受賞した、ベルギーを代表するダンスカンパニー ピーピング・トムによる新感覚のダンスパフォーマンス作品。老人ホームを舞台に、公募によるシニアキャストも出演します。●会員先行＝12月17日(土)●一般発売＝2017年1月8日(日)●構成・演出＝フランク・シャルティエ●出演＝ピーピング・トム、公募によるシニアキャスト●会場＝PLAT主ホール●料金＝[全席指定]一般4,000円ほか★シニアキャスト募集★詳しくは12月以降発表予定



「ザ・空気」

## チケットの購入・お問合せ プラットチケットセンター

- 劇場窓口・電話0532-39-3090[休館日を除く10:00～19:00]
- オンラインhttp://toyohashi-at.jp[24時間受付・要事前登録]

## U24・高校生以下割引ご案内

- 料金＝U24[24歳以下対象]:公演ごとに指定する席種の半額/高校生以下:一律1,000円
- 購入方法＝各公演の一般発売初日から窓口にて取扱い。
- その他＝本人のみ1公演につき1人1枚。枚数限定。座席の指定はできません。要・入場時身分証明書提示。

若手音楽家育成事業  
プラットワンコインコンサート

「若い音楽家には活躍の場を、お客様にはより音楽を楽しめる機会を」と企画されたプラットオリジナルのワンコインコンサートです。500円で60分の贅沢なひとときをお過ごしください。●会場＝PLATアールスペース●料金＝[全席自由・整理番号付]各回500円  
**10/24 [月] 14:00開演 好評販売中** 高柳鞠子(フルート)、三浦真理子(ピアノ)「フルートとピアノで奏でる愛のメロディ」  
**2017/1/11 [水] 14:00開演** 新津くらら(ヴァイオリン)「ソナタで時空をこえて」●会員・一般同時発売 10月24日(月)  
**2017/2/15 [水] 11:30開演** Trio Katze[トリオ・カツェ]犬塚沙希(ピアノ)、中村真帆(ヴァイオリン)、関根のぞみ(チェロ)「トリオで楽しむ音楽の対話」●会員・一般同時発売 10月24日(月)  
**2017/3/8 [水] 11:30開演** Musica Piatto[ムジカ・ピアット]小林美咲(ソプラノ)、杉浦孝治(テノール)、天野初葉(ピアノ)、兵藤雅晃(チェロ)「アンサンブルの調べ～味わい深い名曲と共に～」●会員・一般同時発売 10月24日(月)

**11/13 [日] 15:00開演**  
ええじゃないか豊橋音楽祭関連事業

プラット音楽隊  
ミハエル・エンゲ「モモ」  
昨年度の「市民と創造する演劇『夏の夜の夢』で音楽を担当した舞台音楽家・棚川寛子を演出・音楽に迎え「プラット音楽隊」を結成し、ミハエル・エンゲ原作『モモ』を題材とした30分程度の短い音楽劇を上演いたします。●音楽・演出＝棚川寛子●出演＝公募による一般市民●会場＝PLAT北側広場●料金＝無料(申込不要)

社会の課題に向き合う  
演劇ワークショップ&レクチャー **申込受付中**

ロンドンの劇場で取り組まれている地域の移民や難民、NEETの青少年やメンタルケアが必要な人に対応した教育普及プログラムを、レクチャーやワークショップで紹介します。●講師＝シャロン・カノリック(オールド・ヴィック劇場)、スチュワート・メルトン(劇作家・演出家)●申込方法＝①プラットチケットセンター(電話0532-39-3090)②劇場ホームページの専用申込フォームより申込  
＜レクチャー＞  
**11/29 [火] 19:00-21:00** 「英国ヤング・ヴィック劇場&オールド・ヴィック劇場エデュケーション・プログラム紹介」●会場＝PLAT研修室(大)●定員＝40名(申込順)●参加料＝500円  
＜ワークショップ・プログラム＞  
**11/30 [水] 18:30-21:00** 「青少年や市民との創作ワークショップ」  
**12/1 [木] 18:30-21:00** 「特別支援教室の子どもたちとのワークショップ・ファシリテーション」  
●会場＝PLAT創造活動室A●対象＝演劇経験者、演劇の活用に関心のある方●定員＝各20名(応募者多数の場合は選考)●参加料＝各2,000円●締切＝11月11日(金)

ワークショップファシリテーター養成講座2016後期  
キックオフ講座

劇場のこれから 福祉現場との関わりを考える  
～「老いと演劇」OIBokkeShiの活動を参考に～ **申込受付中**  
ワークショップファシリテーター養成講座後期に先駆け、演劇や劇場が社会とどのような関係を築いていけるか、講師の活動を聞いて考えを深めます。  
**11/4 [金] 19:00-21:00**  
●講師＝菅原直樹●会場＝PLAT研修室(大)●対象＝ワークショップに興味のある方●定員＝40名程度(申込順)●申込方法＝①プラットチケットセンター(電話0532-39-3090)②劇場ホームページの専用申込フォームより申込●参加費＝無料

ワークショップファシリテーター養成講座2016後期  
まちに聞く、考える **申込受付中**

後期講座では「まち」についてのワークショップを実践しながら、人が集まりつながらる仕組みやファシリテーションについて考えて、まとめていきます。  
**11/23 [水・祝]・12/3 [土]・12/4 [日]・12/10 [土]・1/15 [日]・1/21 [土]・1/22 [日]・1/28 [土]・1/29 [日]・2/17 [金]・2/18 [土]**(全11回)●講師＝柏木陽/すずぎこーた ほか●対象＝上記日程に極力参加できる18歳以上●定員＝20名程度(申込順)●参加費＝3,000円(全11回)●締切＝11月9日(水)17:00必着●申込方法＝①申込書に必要事項を記入の上、窓口にて持参かFAX(0532-55-8192)②劇場ホームページの専用申込フォームより申込

音楽ワークショップ  
ファシリテーター養成講座2016 **申込受付中**

プラット初の試みとなる「音楽ワークショップファシリテーター養成講座」。参加者自身が音楽ワークショップの事例紹介を学び、体験をすることで、社会における音楽の可能性を探る講座です。  
**12/20 [火]・1/17 [火]・1/20 [金]・1/24 [火]**(全4回)●講師＝池田邦太郎(障がい児・者・家族の為の音楽教室主宰)、野村誠(作曲家)、吉野さつき(愛知大学メディア芸術専攻准教授)●対象＝上記日程に極力参加できる18歳以上●定員＝15名程度(申込順)●参加費＝2,000円(全4回)●締切＝12月6日(火)17:00必着●申込方法＝①申込書に必要事項を記入の上、窓口にて持参かFAX(0532-55-8192)②劇場ホームページの専用申込フォームより申込

# PLAT ONECOIN CONCERT

若手音楽家育成事業／プラットフォームコンサート

10月24日[月]14:00開演

フルートとピアノで奏でる愛のメロディ

高柳鞠子〔フルート〕豊橋市出身。国立音楽大学卒業、管弦楽コースを修了。

三浦真理子〔ピアノ〕豊橋市出身。国立音楽大学卒業、ピアノアンサンブルコース修了。

“まりこコンビ!”でお届けするのは、フルートとピアノによる「愛のメロディ」です!一言に『愛』と言っても、それは言葉ではなかなか表現できないものだと思います。好きな人や家族や友達への愛、師弟愛や祖国愛、様々な愛のかたち―。私達にとって愛すべき音楽を、皆様と共に楽しめる事に感謝と真心を込めて演奏致します。皆様にとっての素敵な愛を、一瞬でもこのひと時に感じて頂けたら幸いです。

2017年

1月11日[水]14:00開演

ソナタで時空をこえて

新津くらら〔ヴァイオリン〕豊橋市出身。国立音楽大学を首席で卒業。同時に武岡賞受賞。

今回のプログラムはモーツァルトとプロコフィエフのソナタを中心に組みました。2人とも偉大な作曲家であることは言うまでもないのですが、音楽史上近代のプロコフィエフはモーツァルトの再来といわれています。20世紀前半のプロコフィエフから18世紀後半のモーツァルトへ時空の旅を楽しんで頂けたら幸いです。

2月15日[水]11:30開演

トリオで楽しむ音楽の対話

Trio Katze(トリオ カッツェ)

中村真帆〔ヴァイオリン〕愛知県立明和高等学校音楽科卒業。愛知県立芸術大学4年在学中。

関根のぞみ〔チェロ〕愛知県立芸術大学4年在学中。

犬塚沙希〔ピアノ〕豊橋市出身。愛知県立明和高等学校音楽科卒業。愛知県立芸術大学4年在学中。

私たち Trio Katze は愛知県立芸術大学で共に学ぶ、猫が大好きな3人組です! Katzeとは、ドイツ語で“猫”の意味があります。今回は、私たちの名前にちなんで猫に関係のある作曲家や作品を取り入れたプログラムにしました。室内楽の魅力は、一人一人の距離が近いなかで、対話のようにお互いの個性を聴きあって音楽を作り上げることです。私たちの音楽を通して、そんな“音楽の対話”を楽しんでいただきたいです。

3月8日[水]11:30開演

アンサンブルの調べ～味わい深い名曲と共に～

Musica Piatto(ムジカ ピアット)

小林美咲〔ソプラノ〕愛知県立芸術大学卒業、同大学大学院博士前期課程在学中。

杉浦孝治〔テノール〕岡崎市出身。愛知県立芸術大学卒業、同大学大学院博士前期課程在学中。

兵藤雅晃〔チェロ〕豊橋市出身。愛知県立芸術大学音楽学部器楽科3年在学中。

天野初菜〔ピアノ〕愛知県立明和高等学校音楽科卒業。愛知県立芸術大学卒業、同大学大学院博士前期課程在学中。

Musica Piattoとは音楽のお皿を意味します。皆様の空腹を僕達の音楽で満たせるような演奏が出来ればと思い、このグループ名にしました。皆様が何処かで聴いたことある親しみやすい曲から、クラシックな曲など、ピアノにチェロ、声楽の各々の個性で楽しめるプログラムとなっております。皆様に極上の音楽をお届けします。ご来店お待ちしております。Buon appetito!!

## ESSAY



芸術文化アドバイザー

## 平田 満のちょこっとエッセイ

## 第19回「ハグ」

「ハグ」は、抱擁のこと。抱擁は、人と人との距離を縮め、心と心を近づける行為です。

最近、6歳の孫娘が帰り際に「ギューして!」とハグをせがみます。ときには「ギューしていいよ」と余裕も見せたりしていますが、ちいさな体をハグすると、とても愛おしい気持ちになります。

大柄な外人演出家に初めてハグされたときにはちよつと怖くて戸惑いましたが、すぐに親密感と信頼が生まれましたし、ある障がいを施設で、言葉を伝えられない少年に奇声とともに抱きつかれたときには、驚きの後に温かいよろこびを感じました。ハグはお互いを幸せな気分させます。

最近巷をにぎわせた言葉に、「感動ポルノ」というのがあります。Eテレの人気番組「バリバラ」で紹介されたドキッとする造語ですが、もとはステラ・ヤングという人が初めて使った言葉で、健常者が自ら感動するために、障がい者をモノ扱いして消費することを批判して言い始めたということです。ステラは自身が障がいを者のコメディアンで、30過ぎの若さで亡くなっています。彼女は「障がいは悪いことではないし、障がいがあるからといって素晴らしい人間だというわけでもない」とも言っています。特別扱いしないでほしいと。

私たちは、安易な感動や予定調和を求めすぎているだろうか、人や物事を単純にとらえすぎてないだろうかと、一度振り返ってみるべきかもしれません。自分の価値観を押し付けても本当の感動は生まれません。

ハグは自分勝手にはできません。相手を尊敬して受け入れ、どちらが優位に立つでもなく、決して拒絶せず、お互いを認め合うからこと、抱き合えるのです。

無邪気な子供たちは人を幸せにします。その子供たちが、できるだけ多くのいろんな人とハグできるような社会になってほしいと願います。

## SUPPORT



知識製造業  
三遠機材株式会社  
http://www.san-en.co.jp

**魚伊** 有限会社 魚伊  
電話 52-5256

**株式会社 竹尾建築設計事務所**  
TAKEO 代表取締役 竹尾 誠  
豊橋事務所/豊橋市平川南町91-2 〒440-0035 Tel.0532-62-1331(代) Fax.0532-62-1332  
浜松事務所/浜松市東区流通元町13 〒435-0007 Tel.053-422-3628(代)

**Gallery 48**  
呉服町48 TEL.54-4848

グロトリアンピアノ地域特約店  
**白羽楽器 株式会社**  
電話053-464-3015

**竹内産婦人科**  
産婦人科 婦人科（不妊治療）  
豊橋市新本町23 **〔豊橋 竹内産婦人科〕** **電話053-52-5283**

内科・消化器科・循環器科・眼科・整形外科・脳神経外科・リハビリテーション科  
**医療法人羔羊会 弥生病院**  
日本医療機能評価機構認定 渡辺のり子（東高2回生）  
〒441-8106 豊橋市弥生町字東豊和96 電話（大代）48-2211

**看板広告 アラキスタヂオ**  
豊橋市上伝馬町16 電話52-5586番

本と文具なら  
**精文館書店**  
TEL.54-2345

医療法人慈豊会  
**大島整形外科クリニック** 院長 大島 毅  
東田町井原39の7(市電赤岩口終点前) 電話62-5511(代)

**ONOCOM 株式会社 オノコム**

**株式会社 谷山建築設計事務所**  
豊橋市西羽田町183 http://taniyama-archi.com

外科・内科・胃腸科・麻酔科・消化器科・呼吸器科  
**伊藤医院** 伊藤之一 伊藤文二  
豊橋市小池町字原下35 電話45-5283（代）

創業文政年間 **数せく宗**  
豊橋市新本町40 電話52-5473番

調理と製菓のおいしい資格。  
**豊橋調理製菓専門学校**  
豊橋市八町通一丁目22-2 TEL53-2809

**豊橋銀行協会**（順不同）  
三菱東京UFJ銀行 みずほ銀行 静岡銀行 名古屋銀行  
三井住友銀行 三井住友信託銀行 清水銀行 第三銀行  
十六銀行 愛知銀行 中京銀行 大垣共立銀行

御茶席菓子専門店  
**若松園**  
御菓子司 創業江戸

**気まぐれコンサート**  
事務局／0532-62-9259（小川恵司）

安心・安全な地下駐車場  
**パコ500** ソウの親子の看板が自印  
プラット主ホール・アートスペース公演等へのお客様は30分150円を30分100円(上限4時間まで)に割引します。

整形外科・リハビリテーション科・リウマチ科・麻酔科  
**塩之谷整形外科**  
院長 塩之谷 昌 副院長 塩之谷 香  
豊橋市植田町関取54 電話 0532-25-2115(代)

豊橋名産 **命あくわ**

**井上皮フ科クリニック**  
診療時間 月・火・木・金 10:00～13:00 16:00～19:00  
土 10:00～14:00 休診日＝水・日・祝  
電話0532-55-7007 愛知県豊橋市向山町字中畑13-1マイルストーン1F

プラス・ワンの付加価値をお客様に提供いたします。  
**共和印刷株式会社**  
豊橋市小池町36番地の1 TEL46-3281 FAX46-3285

整形外科・皮膚科・リウマチ科・リハビリテーション科  
**医療法人 大岩整形外科・皮フ科**  
院長 大岩俊久 豊橋市大橋通二丁目115 電話55-2100

伝統的工芸品豊橋筆  
書道用品専門店  
**高誠堂**  
豊橋市呉服町四拾四番地 電話52-5514

本の**豊川堂**  
本店54-6688番／カルミア店55-2810番／アビタ店54-6351番

練物專家 **たけなはでん**  
ココラフロント ホテルアークリッシュ 1F

ISO9001 ISO14001 愛知ブランド企業 認証・認定取得  
**株式会社 三光製作所**  
**三光精密工業株式会社**  
豊橋市佐藤一丁目12番地の3

Storyteller tells the Story  
**物語コーポレーション**

生活にフィアंकオリティ  
**sala**

豊橋駅前南口から直線徒歩3分

## TICKET CENTER

## チケットの購入・お問合せ

**プラットチケットセンター**  
電話・窓口  
**0532-39-3090**〔休館日を除く10:00～19:00〕  
オンライン  
**http://toyohashi-at.jp**〔24時間受付・要事前登録〕



## プラットフレンズ募集 入会金・年会費無料

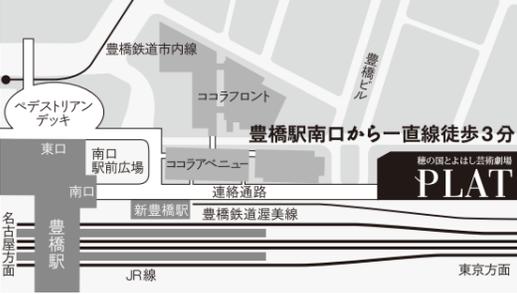
特典  
1 公演情報をメールでご案内します。  
2 インターネットでチケット予約ができます。  
3 主催公演のチケットを一般発売に先がけてご予約できます。  
※劇場窓口またはホームページからご登録いただけます。

**U24・高校生以下割引ご案内**  
ほぼすべての財団主催公演に、若い人にお得な料金を設定しています。  
料金  
U24〔24歳以下対象〕:公演ごとに指定する席種の半額  
高校生以下:一律1,000円  
購入方法  
各公演の一般発売初日から窓口にて取扱い。  
その他  
本人のみ1公演につき1人1枚。枚数限定。  
座席の指定はできません。要・入場時身分証明書提示。

豊橋市西小田原町123番地  
電話＝0532-39-8810〔代表〕  
開館＝9:00～22:00 休館日＝第三月曜・年末・年始。  
第三月曜が祝日の場合はその翌平日。  
豊橋駅(JR東海道新幹線、東海道本線、名古屋鉄道)、新豊橋駅(豊橋鉄道渥美線)直結。豊橋駅南口から徒歩3分。  
※駐車場はありません。公共交通機関をご利用いただくか、お近くの公共駐車場等をご利用ください。

豊橋市西小田原町123番地  
電話＝0532-39-8810〔代表〕  
開館＝9:00～22:00 休館日＝第三月曜・年末・年始。  
第三月曜が祝日の場合はその翌平日。  
豊橋駅(JR東海道新幹線、東海道本線、名古屋鉄道)、新豊橋駅(豊橋鉄道渥美線)直結。豊橋駅南口から徒歩3分。  
※駐車場はありません。公共交通機関をご利用いただくか、お近くの公共駐車場等をご利用ください。

豊橋市西小田原町123番地  
電話＝0532-39-8810〔代表〕  
開館＝9:00～22:00 休館日＝第三月曜・年末・年始。  
第三月曜が祝日の場合はその翌平日。  
豊橋駅(JR東海道新幹線、東海道本線、名古屋鉄道)、新豊橋駅(豊橋鉄道渥美線)直結。豊橋駅南口から徒歩3分。  
※駐車場はありません。公共交通機関をご利用いただくか、お近くの公共駐車場等をご利用ください。



豊橋市西小田原町123番地  
電話＝0532-39-8810〔代表〕  
開館＝9:00～22:00 休館日＝第三月曜・年末・年始。  
第三月曜が祝日の場合はその翌平日。  
豊橋駅(JR東海道新幹線、東海道本線、名古屋鉄道)、新豊橋駅(豊橋鉄道渥美線)直結。豊橋駅南口から徒歩3分。  
※駐車場はありません。公共交通機関をご利用いただくか、お近くの公共駐車場等をご利用ください。

## 穂の国とよはし芸術劇場 PLAT